

# 肝臓病について

## Vol. 2 B型肝炎

- I はじめに
- II 感染様式
- III 診断・検査
- IV 自然経過（持続感染者）
- V 治療
- VI 再活性化



Information Examination Medical Treatment Enlightenment

肝炎総合対策の推進

琉球大学医学部附属病院肝疾患診療相談室  
<http://www.kanzogenki.jp>

# I はじめに

今回、肝臓病患者さん、ご家族の皆さん、一般の方々が肝臓病についてご理解いただく一助となることを目的として、本冊子を作成させていただきました。できるだけわかりやすくまとめることを心がけましたが、まだまだわかりにくい部分もあるかと思えます。その際にはお手数ですが、琉球大学医学部附属病院肝疾患診療連携相談室へご連絡いただければ幸いです。

今後もできるだけ多くの方々に肝臓病に関する情報提供を行い、皆様と一緒に肝臓病診療に役立てるよう、活動を行っていく予定ですので、宜しくおねがいします。

今回まとめた情報は現時点では最新の情報になりますが、将来的には新たな知見が判明し、相対的に古い情報になることもあります。

今後もできるだけ新しい情報を提供できるよう改訂する予定ですので宜しくお願い申し上げます。

- ・ 沖縄県肝疾患診療連携拠点病院  
琉球大学医学部附属病院・肝疾患診療相談室
- ・ 沖縄肝臓研究会

## II 感染様式

「垂直感染」と「水平感染」があります。

### 「垂直感染」とは

出産時に産道を介して  
母親から子供に感染することをいいます。

※現在は、母子感染防止策がとられています



### 「水平感染」とは

幼少期での他者の体液(汗など)による感染と  
成人後の他者との血液や体液を介した感染に大別できます。  
成人後の感染は具体的には輸血や性行為、薬物常用者の  
注射器やピアスの器機の共有などによる感染をいいます。

## III 診断・検査

**B型肝炎を疑ったら次のような採血検査で診断します**

- ◎HBs抗原陽性:現在B型肝炎ウイルスに感染している。(これが続くと持続感染者)
- ◎HBs抗体陽性:過去のB型肝炎ウイルスの感染。もしくはワクチン接種後
- ◎HBc抗体陽性:過去もしくは現在のB型肝炎ウイルス感染。

**HBs抗原陰性+HBc抗体陰性+HBs抗体陰性**

⇒ 現在も過去も感染していません。

**HBs抗原陽性**

⇒ 現在感染しています。

**HBs抗原陰性+HBc抗体陽性 もしくは HBs抗体陽性**

⇒ 過去に感染しています。(既往感染)

◎HBV-DNA:血液のなかのウイルスの量を直接測定する

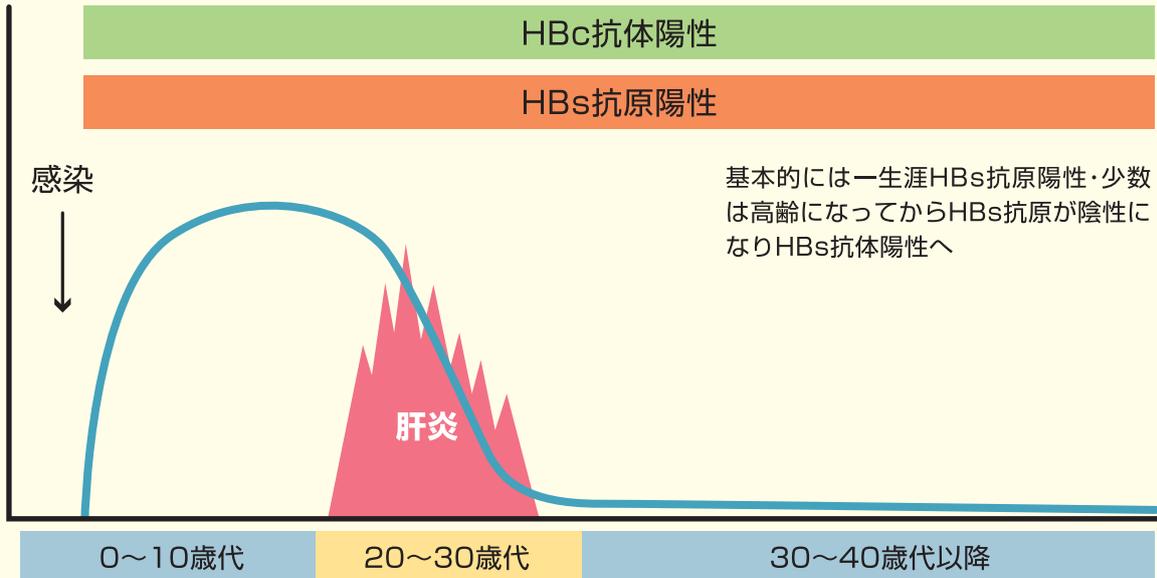
ウイルスが多い⇒肝炎の原因として治療の必要性を検討します

ウイルスが少ない⇒肝炎の原因としての可能性は低いので経過観察します

## IV 自然経過(持続感染者)

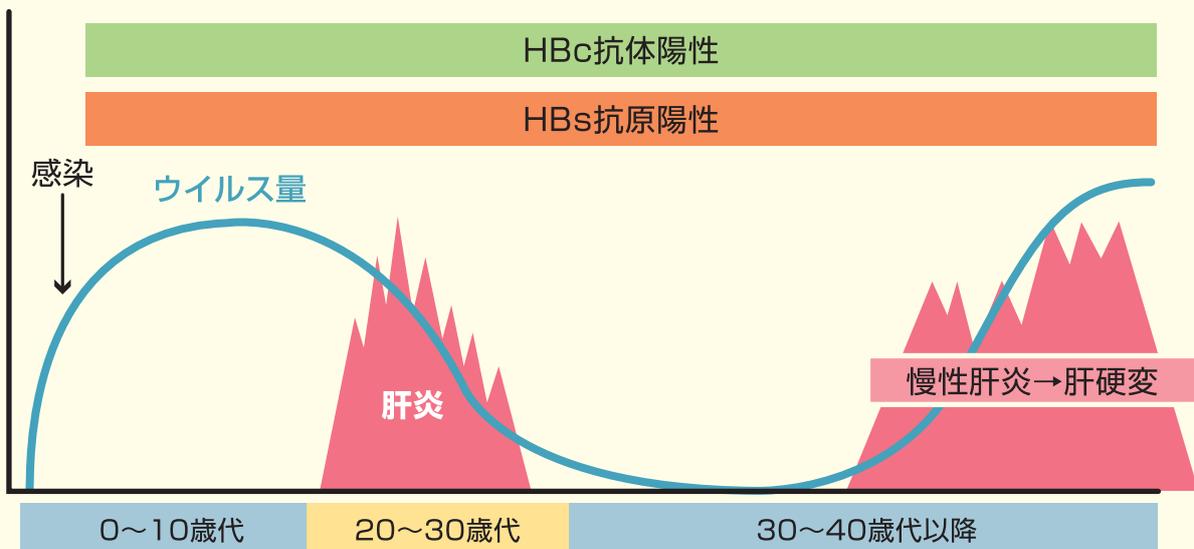
「幼少児期に感染した場合」(母子感染の垂直、衛生環境等による水平感染)

### パターン 1



20歳~30歳で肝炎を発症したあとウイルスは少なくなり、肝炎も沈静化します。沖縄県では多くの方がこのような経過をたどり、治療の必要がない方(無症候性キャリア)がほとんどです。

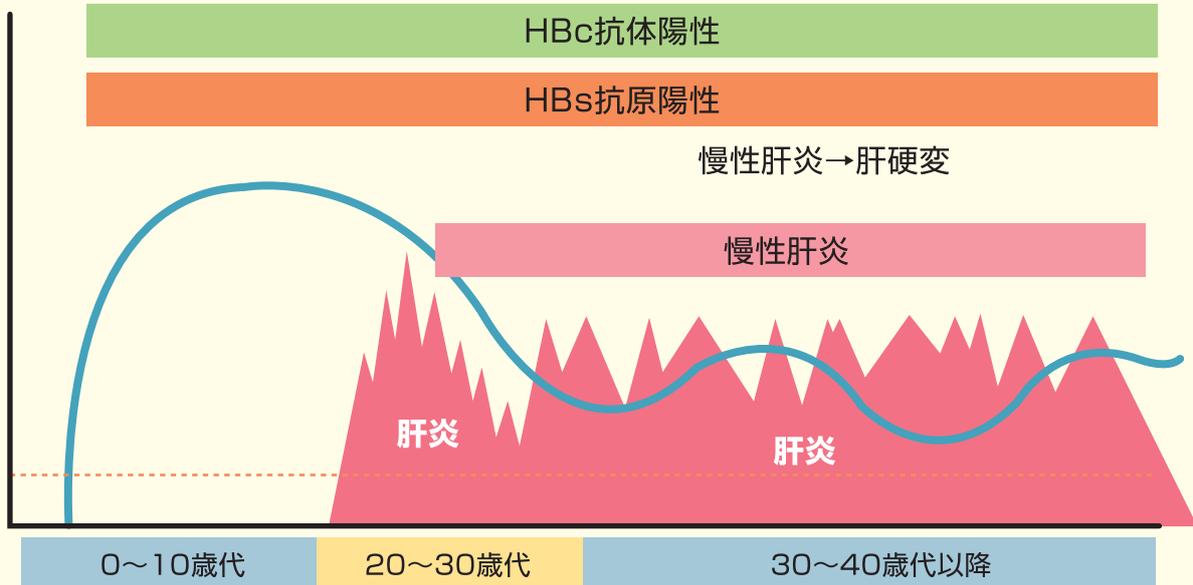
### パターン 2



持続感染者の中にはパターン1のように一度肝炎が沈静化しても40歳~50歳を越えてから再び肝炎を発症する方がいます。肝炎の状態を放置すると肝硬変に進行する危険性がありますので、その場合は治療の必要性を検討します。

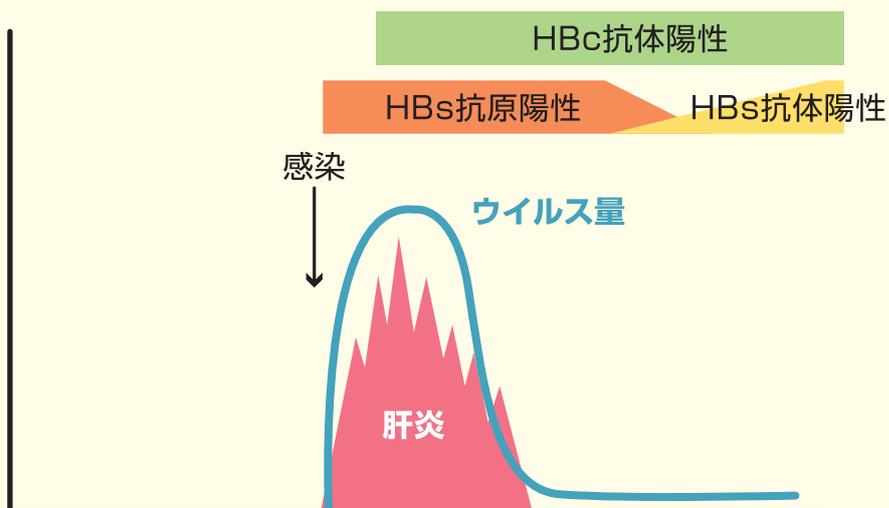
## IV 自然経過(持続感染者)

### パターン3



30歳前後で肝炎を発症したあとウイルス量も高いままで肝炎が持続する方が少ないながらもいます。このような方は肝炎を放置すると肝硬変へ進行するため治療の必要があります。

### 「水平感染の場合」



主に免疫が成熟した後さまざまな年齢で感染があります。

水平感染の場合多くは一過性感染であり、肝炎は自然に沈静化します。ウイルスは肝炎後日常生活レベルでは問題とならない程度に減少します。(HBs抗原 $\ominus$ /HBs抗体 $\oplus$ )  
気づかずに(感染/治癒)していることもあります。まれに(約1%)命にかかわるような激しい肝炎となることもあり、治療が必要なこともあります。

## V 治 療

ウイルスの増殖を抑える核酸アナログという飲み薬や  
インターフェロンという注射の治療があります。

B型肝炎ウイルス(HBV)に持続感染していても、年齢やHBVのタイプ、肝炎の  
状態、ウイルスの量等多くの要因を検討してから治療の必要性が決まります。  
従って

**一度は必ず専門医の診察をうけてください。**

### 肝疾患に関する専門医療機関(13医療機関) (2012年3月指定) ※圏毎、五十音順

二 次 医療圏	医療機関名	所 在 地	電話番号
北 部	沖縄県立北部病院	名護市大中2丁目12番3号	0980-52-2719
	北部地区医師会病院	名護市宇茂佐1712番地3	0980-54-1111
中 部	沖縄県立中部病院	うるま市字宮里281番地	098-973-4111
	社会医療法人敬愛会 中頭病院	沖縄市知花6丁目25番5号	098-939-1300
	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	中城村字伊集208番地	098-895-3255
南 部	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	浦添市伊祖4丁目16番1号	098-878-0231
	沖縄県立南部医療センター ・こども医療センター	南風原町字新川118番地1	098-888-0123
	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院	豊見城市字上田25番地	098-850-3811
	なかそね和内科	那覇市松川 47番地	098-887-1086
	地方独立行政法人 那覇市立病院	那覇市古島2丁目31番地1	098-884-5111
宮 古	沖縄県立宮古病院	宮古島市平良字東仲宗根807番地	0980-72-3151
	たいら内科	宮古島市平良字東仲宗根572番地6	0980-73-8115
八重山	沖縄県立八重山病院	石垣市字大川732番地	0980-83-2525
	肝疾患診療連携拠点病院	琉球大学医学部附属病院	098-895-3331

## VI 再活性化

抗がん剤や免疫抑制剤を使用することでおとなしくしていたB型肝炎ウイルスが増え、それによって激しい肝炎をおこすことがあります。それを「再活性化」といいます。頻度としては決して高くありませんが、一度発症すると致命的になる危険性があります。



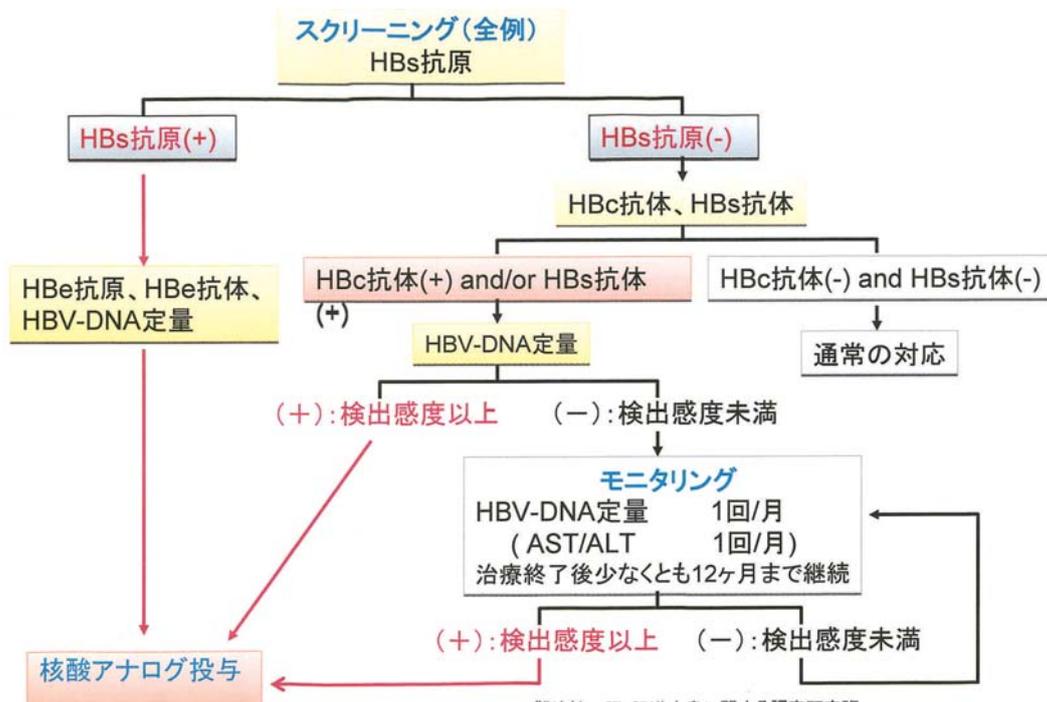
「再活性化」が起こる可能性があるのは

HBVに感染しているがおとなしく治療の必要がない人「無症候性キャリア」昔かかって治ったとされる「既応感染」の方も起こりえます。

(HBs抗原陰性+HBc抗体陽性 もしくは HBs抗体陽性)

「再活性化予防を目的とした」ガイドラインがあり、抗がん剤や免疫抑制剤などを使用する方はガイドラインにそった対応を主治医と相談する必要があります。

### 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン(改訂版)



難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班

肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究班



# 肝臓病について

Vol. 3 C型慢性肝炎

Vol. 4 肝がんについて

■肝炎についてもっと知りたい方は以下のホームページをご参照いただくか、お問い合わせ下さい。

## 厚生労働省健康局

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/)

## 厚生労働省健康局疾病対策課 肝炎対策推進室

TEL ▶ 03-5253-1111 (代表)

URL ▶ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou09/>

## 琉球大学医学部附属病院肝疾患診療相談室

TEL ▶ 098-895-1144 FAX: 098-895-1414

(月～金曜日 9時半～15時半)

URL ▶ <http://www.kanzogenki.jp>

Mail ▶ [info@kanzogenki.jp](mailto:info@kanzogenki.jp)